

製品名: IFN- α / β R α (リン酸化 Tyr466) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04813

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	63kDa

抗原情報

遺伝子名	IFNAR1 IFNAR1; IFNAR; Interferon alpha/beta receptor 1; IFN-R-1; IFN-alpha/beta receptor 1;
別名	Cytokine receptor class-II member 1; Cytokine receptor family 2 member 1; CRF2-1; Type I interferon receptor 1
遺伝子 ID	3454.0
SwissProt ID	P17181
免疫原	抗血清は、ヒトインターフェロン α / β 受容体 α の Tyr466 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 436-485

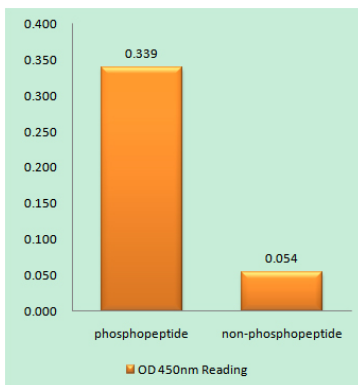
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、インターフェロン α および β の受容体の2つの鎖のうちの1つを形成するI型膜タンパク質です。受容体への結合と活性化はJanusタンパク質キナーゼを刺激し、STAT1およびSTAT2を含む複数のタンパク質をリン酸化します。コードされているタンパク質は抗ウイルス因子としても機能します。[RefSeq提供、2008年7月],機能: インターフェロン α および β の受容体。I型インターフェロンへの結合は、JAK、TYK2、STATタンパク質、およびIFNR α および β サブユニット自体を含む複数のタンパク質のチロシンリン酸化を引き起こします。、PTM: TYK2チロシンキナーゼによってチロシン残基がリン酸化されます。、配列注意: 配列の汚染。潜在的なポリA配列。、類似性: II型サイトカイン受容体ファミリーに属する。、類似性: 3つのフィブロネクチンIII型ドメインを含む。、組織特異性: IFN受容体はあらゆる組織に存在し、ほとんどのIFN抵抗性細胞の表面にも存在する。アイソフォーム1、アイソフォーム2、およびアイソフォーム3は、IFN- α 感受性骨髄腫細胞株U266Sで発現する。アイソフォーム2およびアイソフォーム3は、IFN- α 抵抗性骨髄腫細胞株U266Rで発現するが、アイソフォーム1はU266Rでは発現しない。、

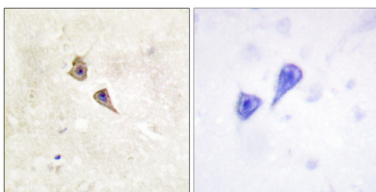
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;Toll_Like;Jak_STAT;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;

画像データ



インターフェロン α/β 受容体 α (リン酸化Tyr466)抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化ELISA)



インターフェロン α/β 受容体 α (リン酸化Tyr466)抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。